



大分県宇佐市院内町で第38回大会

会場に2000人が参加

温かいもてなし受け開催



大会2日目に訪れた両合川橋(宇佐市院内町、国登録有形文化財)石橋周辺の「両合棚田」は「日本の棚田百選」に入っている。

写真提供/中村まさあき

日本の石橋を守る会の第38回大会が大分県宇佐市院内町で2017(平成29)年5月13日(土)・14日(日)の2日間開催された。

1日目の会場となった院内文化交流ホールには、会員36人と院内石橋群景観保全協議会委員、市民などを合わせ約2000人が来場。総会の後、記念イベントが催された。2日目は地区に点在する75の石橋のうち、Aコース「名棟梁、松田新之助の足跡と恵良川を彩る石橋を巡るコース」と、Bコース「観光客がなかなか訪れない場所にある、地元の人がオススメする石橋を巡るコース」の二手に分かれ、石橋を巡った。

本来は昨年、院内町の鳥居橋築造100周年に合わせて同地で第37回大会を開く予定だったが、熊本・大分地震の影響で中止となり、あらためて今年、第38回大会として開催した。

第38回大会プログラム

【1日目(5月13日)】

- 開会宣言 末永暢雄・副会長
- 主催者挨拶 甲斐利幸・会長
- 来賓挨拶 是永修治・宇佐市長
- 通常総会

次回大会予告 坂本正詮・会員(熊本)、竹田宏司(熊本県玉名市教育委

員会教育部文化課長)

記念イベント「石橋の歌」発表 院内北部小学校児童

記念講演1「鳥居橋築造100周年を迎えて、今思うこと」 向野茂・院内石橋群景観保全協議会委員

記念イベント「石割体験/石の重さ当てクイズ」 吉本正隆・有限会社吉本本家石材店会長

会員活動報告 費田岳和、中村まさあき、中村秀樹、尾上二哉・各氏

記念講演2「石造アーチ橋の魅力と継承」 山尾敏孝・熊本大学大学院シニア教授

記念イベント「合唱」 院内ローズベイ・コール 閉会

意見交換会(ワイナリーレストラン 朝霧の庄)

【2日目(5月14日)】
現地石橋見学会 案内役 院内石橋群景観保全協議会、院内ふるさとガイド教室

通常総会

第38回総会には、来賓としては是永修治・宇佐市長、佐田則昭・宇佐市議会議長、近藤一誠・教育長が出席。来賓を代表して是永市長は、大会開催の祝辞に続き、「先人の努力で院内町には75基の石橋があり、これは今や町の財産となつていきます。現在は石橋の景観を大切に守り、まちづくりを生かし

※2面に続く

中面の案内

2面 第38回総会で上塚尚孝氏が新会長に決定

6面 宮ヶ原橋 復旧まであと一歩

5面 新発見石橋(費田岳和)

7面 熊本地震で被災した石橋 修復へ



会場には石橋に関する展示物が置かれた。上は木製の支保工模型。下は石材を使った、「野面積」「布積」「谷積」のサンプル

ています」と、宇佐市の取り組みを述べた。

総会議事進行のため院内石橋群景観保全協議会の佐藤修水（おさみ）委員が議長に選出され、上塚尚孝・事務局長が昨年度の事業経過と収支決算書を報告、本年度の各部署計画案と予算案が了承された。また、役員を選任議案が提出され、了承された。役員人事は次の通り。

**新会長に上塚尚孝氏
副会長に河村修氏
事務局長に軸丸英顕氏**

新会長に上塚尚孝氏（事務局長）、相談役に甲斐利幸氏（会長）、副会長・総務部長に河村修氏（理事・総務

部長）。新たに理事に就任するのは、石山信次郎氏（通

潤橋史料館長）、上塚寿朗氏（井上基夫氏に替わり会計を担当）、大塚光二氏（関西山都会事務局長）、梅田穰氏（熊本県山都町長の4人。また、監事として中野敏憲氏（東陽石匠館長）が選任された。

**来年の大会
熊本・玉名市に決定**

総会の最後に来年度、大会開催が決定した熊本県玉名市から、会員で「玉名観光ガイドの会」の坂本正詮（まさのり）氏と、玉名市教育委員会教育部文化課長の竹田宏司氏が来場し挨拶。玉名市を含む菊池川流域4市町は今年、「米作り、二千



会場内には「石割体験」用の石材が準備された

年にわたる大地の記憶、菊池川流域『今昔《水稻》物語』が日本遺産に認定されたことや、市内に現存する石橋もその物語に関連していることを紹介し、来年の大会への来場を呼びかけた。

報告1 石橋新規発見

会員活動報告では、資料

整理部の賛田岳和部長（宮崎県）が、「新規発見！石橋に関する報告」と題し話した。「院内町は私にとって石橋探訪のスタートの地で、記録を見ると、過去に22回も訪れていました」と振り返り、新発見の石橋について報告した。

「石橋ハンター」と呼ばれる賛田氏は、田の神や庚申

塔（こうしんとつ）、仁王像などの石造物がある場所も数多く訪れており、それが石橋の発見につながることもあるという。「まだまだ、発見されていない石橋があるはず。来年の大会でも石橋発見の報告ができればと思っています」と、活動に意欲をみせた。

報告2 被災からの復旧

続いて、「熊本地震 被災石橋の復旧に向けて」と題し、広報部の中村まさあき部長、調査研究部の中村秀樹部長、技術部の尾上二哉部長（共に熊本県）が、リレー形式で活動の報告を行った。まず、中村まさあき氏が石橋の被害状況に関し、会報で紹介した内容を取り上げ、石橋の強さを紹介。

続いて、中村秀樹氏が石橋の被災状況に応じた復旧の在り方について、「県や市町村の文化財指定だけでは被災石橋の復旧に必要な予算確保に限界があるため、石橋を歩道などの道路施設に入れ、国（国土交通省）

**記念講演1
石橋のある風景を未来へ
鳥居橋架設100年を迎えて**



向野 茂氏
むくの・しげる 院内石橋群景観保全協議会委員、院内ふるさとガイド教室顧問

記念講演1では、院内石橋群景観保全協議会委員の向野茂氏が「石橋のある風景を未来へ鳥居橋架設100年を迎えて」をテーマに演壇に立った。

院内町になぜ数多くの石橋が造られたのか。その理由について向野氏は、豊富な石材、深い谷に囲まれた地形、優れた石工職人の存在、地域住民の熱意などを挙げ、解説した。

また、過去の台風による大雨に耐えた鳥居橋についてのエピソードも紹介し、「石橋は地域の宝です。石橋のある風景を未来につなげてもらいたい」とその思いを語り、地域の未来を担う、会場の子どもたちへメッセージを送った。

先人の偉業を紹介
冊子にまとめる



「院内の石橋物語」 向野 茂著
A4判、80ページ。文化総合誌「宇佐文学」に連載中の文を加筆して冊子化。（問）TEL.080-1770-6366（向野）

日本一の「石橋の里」を、住民の誇りに



記念イベントで「石橋の歌」を熱唱する院内北部小学校の児童たち



「院内ローズベイ・コール」の皆さんの合唱



吉本本家石材店の吉本正隆会長



児童が参加した石割体験

の査定対象にすべきである」と提言した。

最後に、尾上氏が石橋構築・修復技術者養成事業（肥後種山石工技術継承講座）について紹介し、昨年度まで6年間続けてきた座学研修、実習、実践、能力認証の概要を紹介し、技術者養成の必要性を力説した。

記念イベント

総会の後は、地元の方々による心温まる記念イベントが開かれた。

最初に院内北部小学校児童による石橋の歌「ふるさとの懸け橋」が披露され、会場いっばいに子どもたちのかわいい歌声が響き渡った。同小学校内には保護者が造った2連アーチの石橋「父の背橋」がある。歌は、日本一の「石橋の里」を誇りにしてほしいという、子どもたちへの願いが込められているようだった。

また、会場ステージの前

に並べられた7つの石材を割る、石割体験が行われた。吉本本家石材店の吉本正隆会長が手本を見せ、歌を披露した小学生も参加し、すでに矢穴に差し込まれたセリ矢の頭をセットで、一人ずつ交代してたいた。重く大きな石材が割れる瞬間には歓声が上がリ、子どもたちは目を輝かせていた。

そのほか、石の重さ当てクイズなどで会場は盛り上がった。最後は女性コーラス「院内ローズベイ・コール」の皆さんによる合唱が披露された。フィナーレは院内町各所の石橋のドローン（小型無人機）映像が背景に流れ、地元根差した皆さんの歌声が会場を満たした。

記念講演

イベントをはさみ、2つの記念講演が行われた。前半は院内石橋群景観保全協議会の向野茂委員、後半は熊本大学大学院の山尾敏孝シニア教授が演壇に立った。

記念講演2 石造アーチ橋の魅力と継承 （強さと弱さ）



山尾 敏孝氏
やまお・としか 熊本大学大学院シニア教授、院内石橋群景観保全協議会会長

記念講演2では、熊本大学大学院シニア教授の山尾敏孝氏が、「石造アーチ橋の魅力と継承（強さと弱さ）」と題し講演した。

石材を使った石橋の模型による工学的実験や、実際の石橋の路面上に20センチ車両を通過させる実証試験などの結果を紹介し、石橋の強さを説明。実験から、壁石が輪石の耐力増加に重要な役割を果たしていることなどを報告した。

また、自然災害による数々の石橋の被災例も紹介し、石橋の保存と治水対策にはジレンマがあることを指摘。石橋を守っていくためには、石橋点検マニュアルを作成して最適な補修・補強を行うことや、石工技能者の養成、石橋群としての文化財指定や、石橋の魅力を伝えるボランティアガイドの養成などが必要であることを提案。

最後に、「石橋のある地元住民をはじめ、官民学が協力して石橋の保存を検討すべき」と語った。



分寺橋



鳥居橋

2017年5月14日

院内石橋群スケッチ

片寄 俊秀



打上橋



荒瀬橋

現地石橋見学会 宇佐市院内町の皆さんがガイド

大会2日目は、会員がA・B、希望のコースに分かれ、院内石橋群景観保存協議会と院内ふるさとガイド教室の皆さんの案内で、町内に点在する石橋を巡った。

「名棟梁、松田新之助の足跡と恵良川を彩る石橋を巡るコース」と題するAコースに参加した会員は土岩橋、鷹岩橋、富士見橋、荒瀬橋、御沓橋、父の背橋、櫛野橋、鳥居橋などを訪れた。「観光客がなかなか訪れない場所にある、地元の人がオススメする石橋を巡る」と題するBコースは、念仏橋、両合川橋、久地橋、打上橋、父の背橋、一の橋などを巡った。

父の背橋は、宇佐市立院内北部小学校の校庭に、同校PTA(父親部)が4年をかけて築造した2連アーチの石橋。子どもたちが地域の文化や母校に誇りを持てるようお願い、保護者らが汗を流したもので、町では76基目の石橋となっている(会報84号で紹介)。

両コースに分かれて石橋を見学した会員は最後に合流し、地元食材をふんだんに使用した「院内つま草料理の会」手製の弁当を味わった後、現地で解散した。



上、院内つま草料理の会の手製「院内つま草弁当」



右、地元の方々による飲み物や甘味の接待の様子



宇佐市立院内北部小学校内にある「父の背橋」

石橋探訪の旅

写真提供/ 賛田岳和

資料整理部 賛田岳和部長

各地を巡り、まだ知られていない、埋もれた石橋を見つけ続ける、調査研究部の賛田岳和部長（宮崎県）。この2年間に発見した2橋について、本人のコメントとともに紹介する。

旧狩川橋 鹿児島・志布志市

「旧道に取り残された橋がありました。一度チェックしたかどうかあやふやだったので、川床に降りて確認すると、石造アーチ橋でした。雨のため増水しており、計測不能。後日再訪しましたが、深みに阻まれ、やはり計測不能」



旧狩川橋
鹿児島県志布志市松山町新橋(狩川)

皆倉の石橋 鹿児島・錦江町

「鹿児島県肝属郡錦江町の皆倉（かい

くら）から鹿屋市浜田町へ抜ける旧道らしき道を通ってみました。まず立派な青面金剛（しょうめんこんごう）に出会い、そこが旧道に間違いのないことを確信。しばらく山道を走ると、川が横切っている場所を通り過ぎました。下流側を見るとコンクリートアーチ。そんな場合、上流側に石橋がある可能性が高い。上流側を確認すると輪石が見えました。うれしい瞬間でした」



皆倉の石橋
肝属郡錦江町神川 皆倉(かいくら)
橋幅3.0m 径間3.64m
拱矢1.68m 環厚:42cm 輪石17列

賛田氏の石橋探訪はそのほか、さまざまな人から寄せられる石橋情報を基にした現地確認もある。その情報の中には、石橋の撤去や流失なども含まれる。今年3月から4月にかけて、賛田氏は次の3橋の撤去を確認した。

「菅生橋」（大分県豊後大野市三重町）

「久津良橋」（宮崎市高岡町飯田）

「津留橋」（大分県豊後大野市大野町）

撤去されていた津留橋 大分・豊後大野市

副会長 末永暢雄（長崎県）

今年4月、豊後大野市大野町に「津留橋」を訪ねた。宮崎県会員の賛田さんが2013年に訪ねられたときには、下流側に仮設の橋が架けられ、津留橋の石材には番号がふられていた。撤去されたにせよ、どこかに移設されているはず、そう思いながら現地を訪れた。

しかし、津留地区のどこにも石橋は見当たらず、平井川にはごく当たり前のように、コンクリートの橋が架かっているだけだった。かつて、ここには5連の美しい石橋が架かっていた。そんな光景が不思議と、少しも湧かなかった。

2012年の九州北部豪雨による被害を受け、周辺では河川改修工事が進められている。〈氾濫の原因となった津留橋は、住民の命を守るために撤去された〉と考えられる。

近くの人に尋ねると、「確かに石橋の移設保存の話はあったのですが、なんせ予算が取れなくて、かなわんやっただけです」。その人はそう言って、津留橋があった方に目をやった。

豊後大野市は今、国道57号線沿いに九州横断道路（天狗千歳道路）を建設中であり、その関連工事が急ピッチで行われている。移設保存の予算も、そちらに回されたのかもしれない。住民は水害の



平井川に架かっていた津留橋
=2009年5月、写真提供/ 賛田岳和

現実には勝てず、石橋の撤去に合意せざるを得なかったと聞く。

ただ、地元にとって津留橋は、とても愛着のある橋だったようで、この橋に感謝するための祭事が開かれたそうだ。

すえながのぶを 「石橋をゆく」第2集 1刊行

石橋情報紙「石橋をゆく」の
101〜200号までを冊子化
A4判・102ページ・白黒
1500円(送料込み)



申し込みは郵便で、①氏名②〒住所
③電話番号④希望冊数を記入の上、
〒859-6322長崎県佐世保市吉井町
踊瀬720 末永暢雄 宛へ

豪雨に耐えた大分・日田市の石橋

今年7月5日から6日にかけて、九州北部地方は記録的な大雨に見舞われた。福岡県の朝倉市や朝倉郡東峰村、大分県日田市などでは各地で土砂崩れが発生し、河川が氾濫。日田市内を流れる花月川に架かるJR久大線の鉄橋が流失した。豪雨から1カ月余りが経過した8月14日、日田市を訪れた。(広報部)

写真提供/中村まさあき



大肥橋。左は流木が引っ掛かった下流側。中は基部部石垣が損壊した上流右岸側。右は路面上にがれきりはさまった上流側

花月川の支流、大肥川(おおひがわ)の最下流に架かる石橋「大肥橋」には、上流の東峰村から大量の流木などが流れてきて、一時は川の水が石橋の路面を洗い、路面の上に取り付けられた金属製の歩道の下には、流木などが引っ掛かっていて、右岸上流側の取付護岸の基部部の石垣が損壊したものの、石橋本体に大きな損傷は見つからなかった。

同橋の架橋は1899(明治32)年。すでに118年を経ているが、今回の豪雨では石橋の強さを示したと言える。今後は、流木やがれきを取り除く作業が必要であり、また石橋の左岸上流には、根元が洗掘されたため石橋に倒れかかる巨木



むきだしの輪石のみの姿で流失を免れた筏場目鏡橋

があり、その処理も必要なのである。

なお、5年前の豪雨により壁石などが流失し、

輪石のみの姿となった、大分県で現存最古の石造アーチ橋「筏場目鏡橋(い

かだばめがねばし)」は、内河野川が花月川に注ぐす

ぐそばに架かっているため、今年の豪雨で被害の

拡大が予想されたが、幸い、周囲に夏草が生い茂る

中、むきだしの輪石のままの姿で残っていた。

宮ヶ原橋 復旧まであと一歩 福岡・八女市

2012年7月の九州北部豪雨で被災した星野川の石造アーチ橋「宮ヶ原橋(福岡・八女市)」。その後、修復が進められ、工事は最終段階を迎えている。

今後の大雨による川の増水に備えるため、石橋の右岸側の河道を拡幅し、新たに中の島と分水路が設けられ、橋長約30㍎の新橋が架けられた。

8月末の段階で石橋を除く工事はほぼ終わり、今後は流失した高欄に替わる新しい高欄を地元の「八女石灯ろう協同組合」の石工技能者が担当して製作し、石橋の復元が進められる。竣工は2018年3月末の見込み。

被災前の宮ヶ原橋は、路面を自動車が行き交っていたが、修復後は人道橋として利用される予定で、現在は八女市有形文化財への指定が諮問されている。

星野川に架かる4つの石造アーチ橋は、上流から1・2・3・4連であることから、それらは「ひふみよ橋」と呼ばれ親しまれてきた。宮ヶ原橋は1922(大正11)年架橋の4連アーチ。5年前の豪雨の後、「八女上陽のひふみよ橋を守る会(久間正会長)」が結成され、市に石橋の修復、現地保存を要望。市もそれに応えた。住民と行政が連携し、「石橋のある景観を地域活性化に生かしたい」との思いが実った例と言えるだろう。



上、豪雨直後の宮ヶ原橋。写真上が右岸=2012年7月 写真提供/大成ジオテック㈱



右、右岸に中の島と新橋が完成=2017年6月 写真提供/福岡県八女土木事務所

取材協力/八女上陽のひふみよ橋を守る会



通潤橋(山都町) 《施工中》
橋上の土を除去し、外側に迫り出した右岸の鞆石垣上部の壁石については、上部3段を解体して積み直しが終了。その後は、石造通水管の接合部に充填されている漆喰の詰め替え作業が行われている



通潤橋の工事を見学できる特設の見学所。その設置は、山都町の石橋を守る会が町に要望して実現した



明八橋(熊本市中央区) 《竣工》
路面側に倒れた上流側の高欄(1990年修復)を修復



二俣福良渡(美里町) 《施工中》
高欄の修復の様子。輪石の基底のみ残して解体後、失われた壁石や高欄は新材で補い、あらためて組み立てが行われている。10月竣工予定



馬門橋(美里町) 《竣工》
地震の揺れで全て路面の内側に倒れた高欄を修復



大窪橋(美里町) 《竣工》
損壊し路面側に倒れた高欄を修復。折れた手すり石が接がれている



八勢目鑑橋(御船町) 《施工中》
地震で崩落した石材を回収し、40%ほど上流側にずれ動いた左岸石垣を袖石垣上部の位置まで解体し、再度、組み立てる。回収した石材は、被災前の写真と照合し、位置を特定した上で旧材が使用されている



永山橋(菊池市) 《竣工》
川に落下し、流失した高欄の復元。1本が長さ3mほどあった円筒形の手すり石は、その半分の長さの新しい石材を使い、中に金属棒を入れてつぎ目を接着剤で接合されている。アスファルトの路面も修復



立門橋(菊池市) 《竣工》
左岸下流側(右奥)の取付護岸の崩落した石垣やコンクリート路面を修復



船場橋(宇土市)
左岸上流側の取付護岸横の石垣修復。本体は今後、工事の見込み

震災復旧工事が進む中、被災石橋の修復は、予算や人材、石材や作業用機材の確保などの課題を抱えており、工事に着手できない石橋も少なくない。また、いまだ通行禁止の道路にも、被災状況が未確認の石橋もある。修復工事においても、文化財として施工するためには必要な情報の不足など、現場ごとの課題を抱えているようだ。そうした状況の中で、修復作業が進められている。(広報部)

すでに竣工した石橋は、高欄や取付護岸の石垣の修復で済んだ石橋で、県指定重要文化財「立門橋」「永山橋」「菊池市」町指定有形文化財「大窪橋」「馬門橋」「美里町」、文化財指定のない「明八橋」「熊本市中央区」など。施工中の石橋は、国指定重要文化財「通潤橋」(山都町)、県指定「八勢目鑑橋」(御船町)、町指定「二俣福良渡」(美里町)。その他、石橋本体部を除く箇所での修復が行われた市指定「船場橋」(宇土市)など。今後町指定「下鶴橋」(御船町)ほかで、修復工事が行われる見込みである。

熊 本地震の発生から、もうすぐ1年半になる。震度7の地震2回を含む震度6弱以上の地震が計7回、今年3月31日まで4284回の余震が起こった。その中、被災地では復旧作業が進められ、現在では建物などの解体が進んでいる。そして、被災石橋についても今年に入り、修復工事が進行している。

新会長インタビュー



上塚 尚孝・会長
うえつか・なおたか 1935(昭和10)年、熊本県下益城郡松橋町(現・宇城市)生まれ

上塚尚孝氏が5月の第38回総会において5代目会長に就任。また8月には、熊本県文化協会の荒木精之記念文化功労者にも選ばれた。新会長に感想を聞いた。(広報部)

— 甲斐利幸前会長に推され、新会長となられた感想をお聞かせください。

上塚 会長には会員の心をひとつにまとめる力が求められます。私でよいの

石橋技術の継承と石橋の素晴らしさを全国に知らせようと、「全国石橋サミット in くまもと」が11月17・18日の2日間、熊本・山都町で開催される。主催は同町。
1日目は清和文楽館(同町大平152)でオリエンテーションの後、2つの分科会が開催される。2日目は各分科会報告の後、姜尚中氏(熊本県立劇場館長)の記念講演が行われ、「石橋サミット宣言」が採択される。その後、参加者は緑川流域の石橋群を巡るバスツアー(1コース)とフットパス(2コース)に分かれて、石橋

「全国石橋サミット in くまもと」
熊本・山都町で11月17・18日開催決定

とその文化的景観を楽しむ体験型見学会に参加できる。
山都町の岡本哲夫副町長(会員)は、石橋サミットへの期待を次のように語る。「熊本地震では、山都町のシンボル通潤橋も被災しましたが、現在は修復作業が進められており、来年度末には再び豪快な放水を見ていただけると思います。石橋には、先人の技術、築造の苦労や人々の生活、歴史などいろいろな価値が包含されています。そのような石橋の魅力を支える里、山都町から発信できればと思っています。」

◆開催概要(予定)

- 11月17日(金) 会場/清和文楽館と郷土料理館
 - 13:00 オリエンテーション
 - 14:00 分科会 各定員100名
 - (A)石橋の歴史や文化、景観など
 - (B)石橋の構造や土木技術など
- 11月18日(土) 会場/清和文楽館および緑川流域など
 - 10:00 分科会報告 定員200名
 - 12:40 主催者挨拶
 - 13:00 記念講演 姜尚中氏(熊本県立劇場館長)
 - 14:05 大会スローガン採択(石橋サミット宣言)
 - 14:10 エキスカーション(体験型見学会)
 - ①緑川流域石橋探訪バスツアー(1コース、定員30名)
 - ②石橋フットパス(2コース、定員各20名程度)

かと思いますが、微力ながら、会の発展に寄与できるよう努力いたします。
— 事務局長として部の創設などにも尽力されましたが、今後の会の方向性について、どうお考えですか。
上塚 各部はそれぞれ部長に頑張っていたのですが、部員として動かれる方が少ないのが残念です。個人的に動いて入手された情報を、各部に提供いただけるとうれしいと思います。昔は各県に理事がいましたが、現在は会員の数が各県ごとの石橋の数と比例していません。そこでせめて、石橋保全に関わる団体を各地域に増やすことができればと思っています。

— 8月には、地域文化の振興への貢献が認められ、荒木精之記念文化功労者(熊本県文化協会)に選定されました。
上塚 60年余り前、「霊台橋」(熊本・美里町)を初めて見て、古く、大きく、ゆがみのない美しいアーチに感動し、それから石橋の調査を始めました。振り返ると、そうした感性を身に付けられたのは、中学時代の恩師の影響が大きかったと思います。恩師からは「世の中の全てに「美」があること」、「何かを残そうとする人生の尊さ」を教わりました。私も教職に就いておりましたが、あらためて教育の力というものを感じます。

編集後記
大分県宇佐市院内町で昨年開催を予定していた大会を今年、同地で開催。「1年延びた分、十分な準備ができました」という永修治・宇佐市長のお言葉通り、充実した大会になり、地元関係者の方々に感謝しております。
院内町には57基もの石橋があり、ここはまさに「院内石橋群」と呼ぶにふさわしい石橋の宝庫。地域の宝として、石橋をまちづくりに生かそうという意識が、住民の方々にも共有されていることを実感しました。
石橋を文化財として見直すことで見えてくる、地域の未来があると感じられる大会でした。
(会報担当 中村まさあき)

日本の石橋を守る会
～石橋とその文化を大切に～

会報91号(通算) 2017(平成29)年9月30日発行
代表者 会長 上塚 尚孝
事務局 〒861-3513 熊本県上益城郡山都町下市182-2
通潤橋史料館内 ☎0967(72)3360
HP <http://www.ishibashi-mamorukai.jp>
BBS <http://9328.teacup.com/jsbp/bbs/>